

## ⑧障害者サービス

昭和 48 年に障害者サービスとして対面朗読を開始し、昭和 50 年には岡町図書館に点字図書コーナーを設置、3 年後に貸出を始めた。昭和 55 年には郵送・宅配貸出および声の図書（現在の音訳図書）の貸出を開始した。

現在、来館困難な市内在住者に、郵送または宅配により自宅まで資料を貸出している。動く図書館のステーションから宅配を行う場合もある。

視覚に障害がある方のためには、録音図書（音訳図書やデージー図書\*）・点字図書を収集・貸出し、全国の障害者サービスを行う図書館と協力貸出を行っている。所蔵している資料は、音訳図書 1,385 タイトル、デージー図書 162 タイトル、点字図書 1,425 タイトルとなり、平成 22 年度障害者サービス利用者数は 664 人（対前年比 1.5%増）貸出冊数は 2,780 冊（対前年比 11.4%減）であった。全国的に録音図書は、カセットテープによる音訳図書から、デージー図書へと転換が進みつつあり、豊中市内の利用者においても、少しずつデージー図書の利用が増え、貸出タイトル数における比重は逆転した。

図書館における障害者サービスは、録音図書、点字図書を作成するボランティアグループの協力をえて行っており、図書館では音訳ボランティアフォローアップ研修講座の開催などの活動支援を行っている。

近年、自宅でインターネットに親しんでいる方は、サピエ図書館（視覚障害者及び視覚による表現の認識に障害のある方々に対して点字、デージーデータをはじめ、暮らしに密着した地域・生活情報などさまざまな情報を提供するネットワーク）を利用することで、最新の読書環境を得ることができるようになった。一方、新しい情報機器の扱いに不慣れな方も多く、図書館に相談された場合には、デージー図書再生機などの操作について説明を行っている。豊中市内では、障害福祉センターひまわりにおいても、同種の相談にに応じている。

大きな活字の本の収集・貸出、資料（持ちこみの資料・パンフレット等も可）を読む対面朗読、耳の不自由な方への手話・筆談等による対応については全館で実施している。また岡町・庄内・千里・野畑・高川・蛍池図書館には、拡大読書器を設置しているほか、千里・高川・蛍池図書館には、補聴器用の磁気ループ\*を設置している。

従来から図書館では、健常者と同じように図書館を利用することにハンディキャップがある利用者に対して、これらのサービスを行っているが、利用者の全般的な高齢化という傾向がみられる。今後は、広報・ホームページ等を通じた情報提供を増やし、潜在的利用者への PR を工夫していきたい。

\* 音訳図書 = 目の不自由な方などのためにカセットテープにふきこんだもの

\* デージー図書 = CD-ROM に音声情報を記録したもの（音訳図書では 1 タイトル当たり複数巻必要なカセットテープがデージー図書では 1～2 枚となる）

\* 磁気ループ=マイクを通じた明瞭な音声を聞くためのシステム

## ⑨多文化サービス

平成 4 年より岡町図書館・こども室に「世界のこどもの本の部屋」を設置し、世界の様々な言語で書かれた子どもの本を収集・貸出している。現在 7,012 冊の蔵書があり、購入や寄贈などにより少しずつ増加している。平成 21 年度からは、市民からの外国語児童書の寄贈本を募っている。英語以外の多言語資料のデータ化が中長期的な課題である。

岡町・庄内図書館で行っている「おやくでにほんご」では、とよなか国際交流協会のボラン

ティアグループ「おやこでにほんご」が中心となり、豊中在住の外国人の親子の情報交流や、日本語を学ぶ機会づくりを提供している。

今年度は、岡町・千里・野畑図書館で、外国人の方による母語での絵本の読み聞かせや手遊びなどをする「外国語のおはなし会」を「国際交流の会とよなか（TIFA）」の協力で行った。また、多言語の利用案内を、市役所の窓口を設置するなど図書館サービスのPRに努めた。一般成人向けの多言語資料の提供については、児童書と同様、多言語のデータ化の問題があるが、市民からの寄贈を募るなど資料収集に努める。

## ⑩広域利用サービス

平成15年5月蛸池図書館オープン時から豊中市と箕面市萱野南図書館の、館限定で始めた広域利用サービスは、平成18年度途中の3月15日から豊中市の千里図書館、箕面市の西南図書館を追加し、試行期間をさらに平成25年3月まで延長した。1人5冊、2週間借出することができる。リクエストは現在受付けていない。

平成22年度の豊中市立図書館から箕面市民への貸出は、21,478冊(対前年比16.7%増)、箕面市立図書館から豊中市市民への貸出は、28,651冊(対前年比9.2%増)である。

豊中市市民と箕面市市民の図書館利用の差はあるが、リニューアル前に比べて千里図書館での利用冊数が1.4倍と増加している状況である。また図書館未整備地域のうち、吹田市との市境に住む市民の利便性向上のため、平成23年5月からの実施をめざして吹田市立図書館との協定を結んだ。

## ⑪行政へのサービスと連携

地方分権の進展にあわせ、職員全体が柔軟で活発な発想のもとで職務を遂行する必要性から、平成22年4月に、豊中市内各部局への新しいサービスとして、行財政再建対策室、職員研修所、情報政策室と図書館の合同で庁内LANを使った市職員向けのサイト「庁内仕事応援サイト」を開設した。

図書館が他課と連携をとりながら行う行政サービスは、市職員一人一人の仕事をより豊かなものとし、結果として市民へのサービスの向上につながるものである。このサイト開設により、情報共有システム等ITへの職員自身の活用や習熟度アップ、職員同士の情報交換・共有から連携意識を高め、市全体を視野に入れた職務の効率性・効果性の推進をはかる。さらに、職員自身の情報発信による仕事への自発性・創造性を促進し、自ら学ぶという環境づくりの構築をめざす。また情報提供のために庁内資源(図書館の物的・人的資源)を活用し、図書館の庁内に向けての広報活動にもつなげていく。

サイトのコンテンツには、e-レファレンス(e-mailによるレファレンスサービス)や新聞記事見出し検索のほか、図書館職員作成のテーマ別新着図書リスト(毎月発信)、職員同士の情報交換・共有の場としての「トヨッター」(情報掲示板、以下「トヨッター」)がある。サイトの開設のお知らせおよび利用を促すためのPRとして、総務課長会や職員研修時に案内文書の配布とアナウンスを行ったほか、行財政再建対策室、職員研修所がそれぞれ発行している「TOMORROW」「人材育成だより」にも掲載した。

コンテンツの「トヨッター」については、IDとパスワードを登録せずにそのままアクセスできるように設定を変更したことにより、気軽に利用できるようになった。

平成22年2月時点でのアクセス件数は、6,925件。「トヨッター」3,812件、テーマ別新着リスト(行政)888件、テーマ別新着リスト(キャリア、スキルアップ)789件となっ

ている。数値で見ると、アクセス件数が少なく、サイトの知名度はまだ低いようにも思われるが、今後も職員の利用の拡大に向けて、4課で検討しながらサイトの運営をしていく。

また他の行政支援サービスとして、今年度は職員研修所より依頼を受け、新規採用者向けの研修時に図書館職員が出向き「仕事に役立つサイトご紹介」という話を行った。次年度もこのような研修への参加等人材育成の支援にも関わりながら、他部局との連携を深め、行政支援サービスを展開していく。

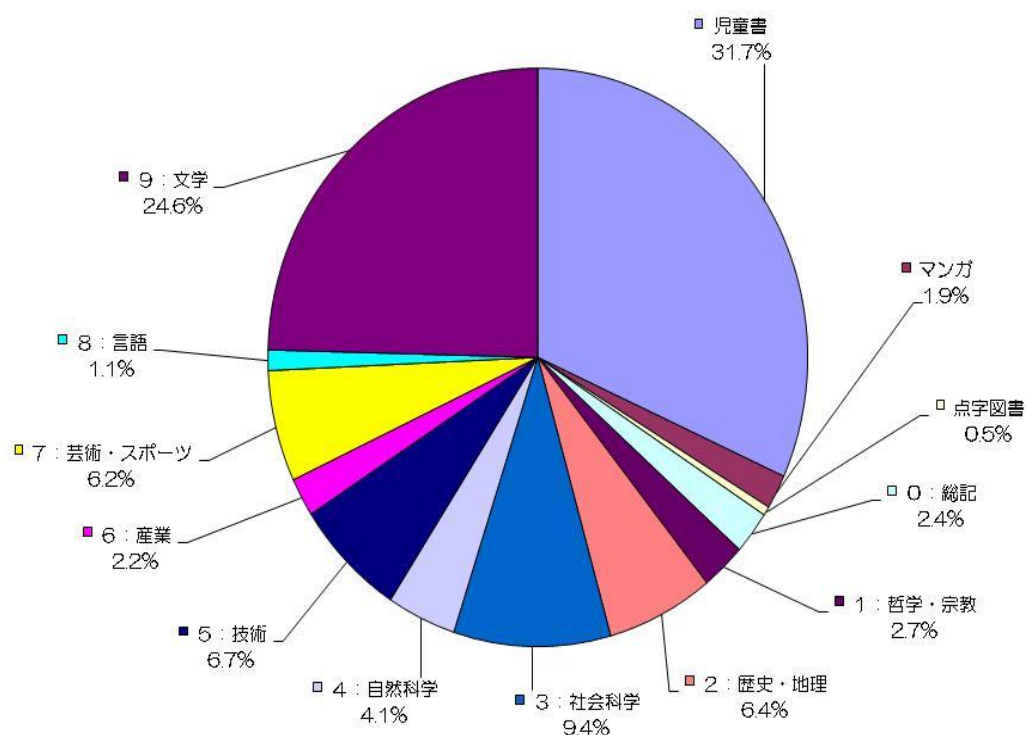
## ⑫資料の保存と収集

昭和63年6月、30万冊収容可能な書庫を備えた野畑図書館が開館し、全館の資料を集中して保存できることになった。平成12年4月からは、資料の収集・整理をより効率的に行っていくため、選書及び整理作業を岡町・野畑で担当、平成15年からは、コンピュータシステムの大規模リプレイスに伴い、野畑図書館1館に集中させた。また、平成22年度は、従来からの「豊中市立図書館資料収集方針・除籍方針・保存方針」を改めて明文化した。

毎週1回、職員で構成する選書委員会で、市内全図書館の資料の選書を行っている。選書にあたっては市民の知的自由を保障し、人間的・文化的教養の醸成を支え、課題解決に資することを基本姿勢としている。各世代の幅広い要求に応えるとともに、起業支援、ビジネス支援、行政支援などの課題に応える資料の収集も行っている。また、資料費の削減にともない、今年度もベストセラー図書などの寄贈を呼びかけ、多くの市民に協力していただいた。市内9図書館を一つの図書館と考え、限られた資料を効果的に運用するように心がけている。

野畑書庫がすでに飽和状態に達しているなか、府立図書館や他市の図書館との相互貸借制度の利用を行いつつ、豊中市立図書館の蔵書保存に努めていく。

「図書」所蔵冊数（全館）分類別比率



### ⑬行事・事業

平成 22 年度は行事・事業を 1,914 回開催した。延べ参加人数は、45,261 人（対前年比 6.2%増）であった。平成 21 年度、新型インフルエンザ流行の影響が大きかったおはなし会・紙芝居会なども、参加人数が増加し、映画会・落語会・朗読会などの大人向け行事は、毎回楽しみにされている市民も多く、定着している。

人権講演会は、「LLブックってどんな本？それはね・・・」「高齢者の人権」「ネット社会と人権」の 3 回を、それぞれ庄内・千里・野畑図書館で開催（野畑は野畑公民分館・小学校・PTA・野畑地区人権協議会共催）した。「人権文化のまちづくり」をすすめる一歩として毎年テーマを工夫して行っている。

また、平成 21 年度立ち上げた北摂アーカイブスの活動がより充実してくるにつれ、各所から注目され、それに関する講演依頼や講師依頼・視察受入なども多かった。多くの行事で市民の参加と協力がある。今後も市民とともに、地域の活性化にもつなげていきたい。

#### <特集展示>

平成 20 年度より各館の職員で構成している企画グループが中心となり、全館で「特集展示」を実施している。各テーマの資料展示がおおむね月ごとに各館を巡回していくことで、従来は各図書館での取り組みに終わっていた資料の展示を全図書館で共有することができる。また、より広く PR するために図書館ホームページに「特集展示コーナー」を設け、展示資料リストの閲覧・予約ができるようにしている。22 年度の特集のひとつである「人生おいしく」では、健康づくり支援室の協力で食育に関する最新の情報や市内での取り組みのニュースの紹介を行い、関連部局との連携もできた。

また、昨年に続いて図書館利用マナー向上のための取組みとしてポスター「手続き忘れにご注意・警備員が巡回しています」を作成し全館で掲示した。12 月には書架整理や利用者への挨拶・声かけなどのフロアワークを積極的に行う取組みを実施した。利用者から気軽に声をかけてもらえるよう、ワッペンを作成（本編表紙）、全職員が身に着けた。

医療情報支援サービスの取組みとして闘病記文庫の設置を計画し、「闘病記文庫作成ガイドライン」を参考に病名から闘病記資料が検索できるように準備を行った。

#### 特集展示テーマ

平成 22 年度（2010 年度）実施

- クラシック音楽を「読む」
- 学舎（まなびや）始めます
- 人生おいしく
- 関西が好き
- 鉄道の魅力
- 「経済」はおもしろい
- パパカ（りょく）を鍛えよう
- 豊中の 500 冊

### ⑭集会室

図書館主催行事や会議等で使用するほか、市民グループ活動のために集会室を提供している。図書館の行事等がない時、図書館関係団体、読書関係団体、社会教育・文化関係団体、福祉および地域振興団体、官公署などが集会室を利用している。9 館全体で 2,697 回 39,722 人（対前年比 3.7%増）の利用があった。特に野畑・東豊中図書館では利用人数が前年度より 20%前後増加しており、地域コミュニティ活動の場として、活発に利用されている。身近に気軽に集まれる場所として、提供を続けていく。